

頼政 良太代表に聞く

教祖の強い信念に学び実践を

第100回教祖祭 墓前式典 田心教

田心教(深田充啓教祖)は1月6日、兵庫県丹波市の本部聖地で深田千代子教祖(慈照院圓覺智覺大姉)を偲ぶ、「第100回教祖祭」を執り行った。

教祖が昇天した午前5時に合わせて深田充啓教祖と親族、教団役員による「墓前おとつめ」を執り行った。墓前おとつめは自由参拝の中、多数の信者が参列し、焼香が行われた。

午前10時半からは、「墓前式典」が挙行された。初めに各教会の教会旗が入場した後、和太鼓の音が鳴り響く中、教団旗・青年会旗、2本の松明とともに、祭主の深田教祖と深田恵子恵主、責任役員らが教祖墓所祭壇前に入座。「自覚反省

と教祖への感謝を述べた。田心教主・深田恵主、責任役員、教会長らが順次焼香した。深田教祖が参列者の前に進み、「御親教」を行った。百回忌を迎えた今も導いてくださっている教祖への感謝と信者の墓所参拝への謝辞を述べた。続いて、教祖の厳しい行の姿が何える行衣についてふれ、1921(大正10)年10月に山口県を訪れた当時の様子を語り、5月2日から身に付けてたままの行衣は、横糸だけでろうろうと保たれ、後ろの裾は、立ては腰巻がそのままだと見え、寒さの中、小さな火鉢一つで極寒の冬を越されたことを説明した。

真の仏道修行を説く 開教86周年記念式典 思親会

思親会(飯島法道会長)は2月11日午前11時から、神奈川県伊勢原市の思親大宮・大孝堂で「開教86周年記念式典」を井戸清行開祖の親族が列席、遠隔地と近郊の多くの信者が参集し執り行った。



思親会(飯島法道会長)は2月11日午前11時から、神奈川県伊勢原市の思親大宮・大孝堂で「開教86周年記念式典」を井戸清行開祖の親族が列席、遠隔地と近郊の多くの信者が参集し執り行った。



飯島会長は日常生活で教えを実践することの大切さを述べた

指針「家庭実践要訓」重ねて学ぶ

立教73年祭 妙道会教団

妙道会教団(佐原慶治会長)は2月4日午前10時半から、大阪市天王寺区の大聖堂で「立教73年祭」を執り行った。式典の様子は動画共有サイト(Youtube)で会員にライブ配信された。開式前に、今一度、教団の立教の原点に立ち返ることの趣旨で発会式(1951年2月4日の映像を視聴。先達導師、会員一同の熱気溢れる想いが聖堂内に充満し、参列した会員は改めて立教の日を迎える喜びを噛み締めた。



大聖堂で導師による講義が奉られた

交響曲「新世界より」第2楽章、三屏依文の調べとともに開式。導師による読経が奉られ、続いて令和6年度の導師位授与、新役員委嘱が行われ、代表者が登壇

大切さを心に刻んだ。この後、会員代表が登壇

き、「御教祖様の信仰はまず自分自身を戒め、そして自分の働きがいづしか人様のお役に立てばいいと思われる敬けんな信仰でございました」と解説した。

続いて、この教典の「おとつめ」を今の時代に当てはめ、一つ一つ説き、「どうにかこのよき日に、御教祖様に誓いを立てて、今一度御教祖様の強い信念に学び、報恩感謝の動きに一心に努めさせていたく、年にしてまいりましよう」と結んだ。

最後に、オペラ歌手の先導により、立教100年祭歌「御教祖とともに」(祥月祭歌)を参列者一同で斉唱し、閉式した。

生かされていると受け止める大切さ

令和6年次「御親教」式典 立正佼成会

立正佼成会(庭野日鏡会長)は1月7日午前9時から、東京・杉並の本部大聖堂で令和6年次「御親教」式典を開催した。同式典は年頭にあたり、会員一人ひとりが法縁にあふれた喜びをかみしめ、仏道精進の決意を新たにすもの。大聖堂には全国から会員が参集したほか、インターネットによる式典映像のライブ配信も実施された。

式典は東京佼成ウインドオーケストラの序奏で開式。国歌・会歌の斉唱に続



立正佼成会(庭野日鏡会長)は1月7日午前9時から、東京・杉並の本部大聖堂で令和6年次「御親教」式典を開催した。

き、庭野光祥次代会長を導師に読経経行が行われた。この後、昨年12月1日に就任した熊野隆規理事長が年頭あいさつを述べた。熊野の犠牲者の冥福を祈るとともに、現在も余震が続く中で不安な状況にある被災者に思いを馳せた。また、自ら被災しながらも、近隣の一人暮らしの方を心配して声をかけた会員のエピソードを紹介。私たちがどんな状況でも、自分がどうありたいかを考えることができる。その選択権は自分にある。それが自在と明示。その上で、心の奥底には悲しみや苦しみ、不安や恐れ、自信のなさや詰まっているが、「今こそ、自分から満ち足りる自分であるとする自由を大切にすること」が自らの仏性を信じることに繋がる。と語った。

さらに、「そうしたい思いを聴いてもらえるのが教団のサンガ(僧伽)であり、今年はその思いを大切にしたい」と語った。この後、古河教会の支部長が「決意の言葉」を述べた。支部長はサンガとの触れ合いの中で自らの信仰姿勢を含めた体験を披露し、今後の精進を誓願した。

登壇した庭野日鏡会長の著書「14歳のための時間論」の一部を引用しながら、人類が進化する過程で、巨大地震による地形の変化に適応するために二足歩行になったと解説。背骨の上の頭が乗ることで、大きくて重い脳を持つ「考えることのできる人類」に進化したと述べ、人類と地球という広い視点で見れば、「地震は人間が進化する上での重要な要因である」との見解を示した。

また、今年の書き初めで揮毫した「素心」「畏敬」の二幅に込めた願いを説き示した。この中で今年新たに披露した「畏敬」について、「地球や太陽の陰さまで、私たちはこうして今、生かされている」と教示。人間は地球でしか生きられないにもかかわらず、戦争などを絶えず繰り返している。と強調し、「争いを止める責任が一人ひとりにあることを自覚することが大事」と語った。

最後に、人間の進歩に欠かせないのは「敬」の心であり、現実を振り返り恥じ入ることで真の成長が生み出れると説く。その上で、信仰生活を通して青少年の育成や人格の形成、家を斉えていくこと、日本の伝統を大切に受け継ぎ、立派な国を築くために努力することが世界の平和に寄与すると述べた。

建国の重要性や伝統の尊さを確認

第85回太陽精神碑建立記念祭 解脱会

解脱会(本部・東京・四谷、岡野英祥法主)は、「第85回太陽精神碑建立記念祭」を2月11日午前10時から埼玉県北本市の御霊地で開催した。太陽精神碑(別掲)は1940(昭和15)年2月11日、岡野聖霊会祖(解脱金剛尊者)が地上の万物を平等に育み、与えて求めぬ太陽の心、無私大愛の精神を表象する碑として建立。解脱会では毎年、建国記念の日に式典を開催している。

午前10時から、「米」「麦」「豆」「蜀黍」「粟」の五穀が供えられた太陽精神碑前、第一部「太陽精神碑前儀」(録音の拝聴に続いて、岡野理事長が「誓願文」を奏上した。

建国以来の祖先に感謝と共に立教巨年に向けて信仰実践することを書いた。

午前11時15分から、御霊地で第二部「太陽精神碑建立記念祭式典」が開催された。一同拝礼の後、国歌と「太陽精神碑の歌」(斉唱)の五穀が供えられた太陽精神碑前、第一部「太陽精神碑前儀」(録音の拝聴に続いて、岡野理事長が「誓願文」を奏上した。

この後、岡野理事長が式辞を述べ、神武天皇から「ひらき」を述べた。

星野会長は、21世紀は淘汰の時代であり、大日如来様から奇跡的な慈恵を感じて、自らの過ちに気づき、恥を知り、浄化に立ち上がっていくことが肝要と説示した。その上で、「一年の出発の大祭において、感謝と悔悟の真心をかみしめ、菩薩へと生まれ変わっていきましよう」と説いた。

来賓あいさつに続いて、江口家親族と役員、来賓、信徒の順で生命の威光様拝受が行われた。午後7時半からは、各支部が趣向を凝らした奉納演劇(1日目は「大日如来様 退座の儀式」、2日目は「大日如来様 退座の儀式」)が行われた。

星野政和師(はしの・まさかず)大法輪台意光妙教会(会長、新宗連元評議員)は2月27日午後10時52分、逝去(往生)。行年75歳。1月29日に通夜、翌30日に告別式が執り行われた。

太陽精神碑の正面には、中央に真紅の日輪。左右に「精神」の二字が彫り刻まれている。碑の脇にある立札には次のような文面が記されている。

「太陽は萬物生成化育の根源であり、その恩徳は宏大無辺であります。会祖はこの太陽を人類愛の象徴とし「与えて求めぬ太陽の心」と教示され、共存共栄の世界を実現するために建立されたのであります」

し、本年の教えの指針である「家庭実践要訓」をグローバルな視点で捉え、身近なところからの行動変革が世界平和につながることを訴えた。

そして、佐原慶治会長の「ご教示」を拝聴。「ご教示」を拝聴。「ご教示」を拝聴。「ご教示」を拝聴。

大法輪台意光妙教会(星野政和会長)は1月13日から15日まで3日間わたって、福岡県太宰府市の本部で「第46回御昇天奉祝大祭」を挙行した。全国から参集した会員は、創始者「大日如来様」(江口工師)に感謝と帰依の思いを新たに

に「たちねの慈恵さまの斉唱で開幕。大祭委員長の星野政和会長があいさつを述べ、1月の御昇天奉祝大祭から12月の女供養までの年間行事を通して得られる、さまざま「ご慈恵」について詳述。

その上で「これからの1年間、大日如来さまのお心に共に沿わせていただき、

「生命の威光様」でまして聖水を厳かに迎え入れた。

「おでまし」に移り、「生命の威光様」(聖水)を厳かに迎えた後、正面の御法座の幕が開かれ、「大日如来様おんみたま様(座像)が姿を現す、参列者の「なむあみだぶつ」の唱念仏が堂内に響き渡った。

「感恩詞奉」に続き、「大日如来様の御真言」(録音)が流されると、参列者は頭を深く垂れ、静かに聞き入った。幕が閉じられ、「大日如来様 退座の儀式、午後7時半からは奉納演劇(2日目は「大日如来様 退座の儀式」)が行われた。

【太陽精神碑とは】解脱会では、「真・善・美(論理・哲学上の「真」、倫理・道徳上の「善」、審美・芸術上の「美」)を、会員が理想として追求する永久普遍の価値、その最高の境地のこととする。これらは注祭神・天地地祇・太神の大御心の表われであり、本質である」と説く。

岡野聖霊会祖は、この「真・善・美」を顕彰し、解脱会の教えを学ぶ対象として、御霊地に太陽精神碑(真の家徽、1974.0.2.11日建立)と萬霊魂祭塔(善の家徽、1936年11月30日建立)、岡野聖霊師(徳神(美の家徽、1934年11月28日建立)の「三建碑」を遺した。

ひとりで悩まず電話して！

ホントにつらい時って誰にもいえない…よね。

- 必要に応じて面接をしています。
- 手紙でのご相談にも応じています。
- 秘密は守られます。
- 相談は無料です(通話料はかかります)。
- 金銭的な援助はできません。
- 医療・法律・教育関係の助言や指導は、専門家にお願います。
- 特定の思想・宗教・政党などは一切関係ありません。

NPO法人 国際ビフレンダーズ

東京自殺防止センター

03-5286-9090

年中無休、夜 8 時から深夜 2 時30分まで

月曜は夜10時30分から深夜 2 時30分まで
火曜は夕方 5 時から深夜 2 時30分まで

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-10-1 日本基督教団シロアム教会内
事務局電話番号 03-3207-5040 (FAX 03-3207-5098)

●全国にある他の自殺防止センター

- 国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センター
06-6280-4343 毎週金曜、午後1時から日曜、午後10時まで
- 国際ビフレンダーズ 宮崎自殺防止センター
0985-77-9090 毎週日曜・月曜・水曜・金曜、午後8時から午後11時まで
- 国際ビフレンダーズ 岩手自殺防止センター
019-621-9090 毎週土曜、午後8時から午前0時まで
- 国際ビフレンダーズ あいち自殺防止センター
052-870-9090 毎週金曜、午後 8 時から午後 11 時まで

これからの社会と宗教教団―関係構築に向けて

国際宗教研究所 設立70周年記念シンポジウム

国際宗教研究所(島蘭進理事長)は2月17日午後1時から、東京都文京区の東京大学本郷キャンパスで、国際宗教研究所設立70周年記念公開シンポジウムを対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。テーマは「これからの社会と宗教教団」。

島蘭進理事長のあいさつに続き、第19回国際宗教研究所賞並びに奨励賞の授賞式が行われた。東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター特任研究員の村津欄氏が研究所賞、京都大学文学研究科講師の杉江あ



「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

い氏が奨励賞に輝いた。シンポジウムでは、3人の宗教研究者が基調発言に立った。はじめに、佛教大学教授の大谷栄一氏は旧統一教会問題をめぐり、日本の宗教教団の公共性に再び注目が集まり、活発な議論が重ねられていくと強調。東日本大震災で寺院や教会が避難所として機能し、宗教者が積極的

に「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

第2回東京平和円卓会議を開催

対立から対話へ平和構築の道を共に

『戦争を超え、和解へ』。諸宗教平和円卓会議の第2回東京平和円卓会議が2月19日から21日まで、東京都内のホテルで開催された。世界宗教者平和会議(WCRP)の各国諸宗教評議会(IRCO)国内委員

の代表者、紛争地域の宗教者、政府関係者ら16カ国・地域から約200人(オンラインでの参加者含む)が参加。世界宗教者平和会議(WCRP)国際委員会(フランス・クレリア・カゲマ事務総長)、

同日日本委員会(戸松義晴理事長)、国連文明の同盟(UNAOC)、ミゲル・アン・モラティノス上級代表が共催し、アジア宗教者平和会議(ACRP)、WCRP国際活動支援議員懇談会、WCRPジャバニストラステイア、国際ICC(イニシアティブ・オブ・チェンジ)日本協会、国際ICC推進議員連盟が後援

会議に集った参加者たち(2月19日)

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

人道危機における支援のあり方 探る

ICRCとUNHCRの両駐日代表が基調講演

WCRP日本委員会は1月25日午後3時から、東京・杉並の立正佼成会法輪閣を主会場に、オンライン併用で「新春学習会」を開催した。テーマは、「人道危機における平和推進フォーラム会長)、ムニャ・ユナン博士(ヨルダン・聖地福晋ルーテル教会名誉主教)、ミゲル・アンヘル・モラティノス氏(国連事務

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

東京自殺防止センター 講演会

「死にたい」と共に生きる

看護師の木田塔子氏が体験交え語る

国際ヒフレンダーズ・東京自殺防止センター(吉田尚文理事長)は2月12日午後2時からオンラインで、「第10回西原由紀子記念事

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

「これからの社会と宗教教団」をテーマにオンラインと併用で行われた記念シンポジウム

新刊紹介

「年金十給与」の賢いもらい方

本田 哲一 著

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

「年金十給与」の賢いもらい方

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談

宗教法人の法律相談